

東日本大震災における文化財レスキューをきっかけに、この5年間、実に足りなく三陸沿岸に通っています。わたしの専門としている保存修復の技術を生かすことのできる被災民俗資料の保全活動をおこないつつ、地域に根差した三陸の芸能の再開が、復興の原動力にもなりうる可能性に気づいてからは、三陸の文化力の素晴らしさや可能性を関西でも紹介しようと、さまざま芸能団体の方々との交流も深めてきた。

そのメンバーには漁業関係者も多く、訪ねていくたびに三陸の豊かな海の幸を囲みながら芸能談議に花が咲く。食卓の上には、春はホヤ、夏はウニ、秋から冬

みんなく 食の民族誌

は力ギ、その他ワカメ、木タテ、カツオ、サンマ、シヤケなどなど。これら海の幸の豊かさには圧倒されるばかりである。さらに、自宅にお土産として送るため、三陸帰りのわが家の夕食は、三陸ものが大半を占めるようになってしまつた。



40

三陸の海の幸

日暮直五



全国屈指の収穫量を誇る「陸奥」がダメの水揚げ。肉厚の葉、しゃきしゃきした食感の茎、栄養豊富なメカブど、どの部位もやはり絶品だ(筆者撮影)

潮流のぶつかる海域、養殖も盛ん

なる内湾がいくつもあることで養殖業が発達したことだろう。三陸沿岸は、海産資源の一大産地となる自然条件を兼ね備えた地域なのだ。

一方で、隣接する浜や内陸部との往来が大変な地
形、自然環境に左右されやすい漁業、なによりも今回
の震災のような津波による壊滅的な被害を幾度も経験
してきた歴史は、集落内の結束力を強める運営方法を
昔から工夫させてきた。わたくしが文化財レスキューで
支援にいった南三陸町の「契約講」という相互扶助

津波の歴史 結束力で乗り越え

わたしは、南三陸町波伝谷の契約講の存在について、2月6日にみんぱく映画会で上映した我妻和樹監督作品「波伝谷に生きる人びと」の企画を進めるなかでより深く知ることとなつた。この映画は、集落内の分化が進み、さらに新しく移り住んできた人びとが増えてきている状況を踏まえ、いろいろな立場の人びとが波伝谷の新しい集落運営の在り方を考えている様子を見事に描いていた。

調整する必要があること、しかし、今の生活に直接的に関わることなので、簡単にできる話ではないことが、実際に論理的に語られており、わたしが最も感動するシーンである。

豊かな漁場で育まれた、豊かな海の幸。この恩恵を多くの人びとが享受する。その結果、東日本大震災からの復興が進む。確かに素晴らしいことだと思う。しかし、人びとの生活環境は姿を変え、また海の環境も変わっていく。この変化にどのように対応するのか。復興支援を進めながら、復興の先の未来についても自分なりに考えてみたいと感じている。

わたしは、南三陸町波伝谷の契約講の存在について、2月6日にみんぱく映画会で上映した我妻和樹監督作品「波伝谷に生きる人びと」の企画を進めるなかでより深く知ることとなつた。この映画は、集落内の分化が進み、さらに新しく移り住んできた人びとが増えてきている状況を踏まえ、いろいろな立場の人びとが波伝谷の新しい集落運営の在り方を考えている様子を見事に描いていた。

調整する必要があること、しかし、今の生活に直接的に関わることなので、簡単にできる話ではないことが、実際に論理的に語られており、わたしが最も感動するシーンである。

豊かな漁場で育まれた、豊かな海の幸。この恩恵を多くの人びとが享受する。その結果、東日本大震災からの復興が進む。確かに素晴らしいことだと思う。しかし、人びとの生活環境は姿を変え、また海の環境も変わっていく。この変化にどのように対応するのか。復興支援を進めながら、復興の先の未来についても自分なりに考えてみたいと感じている。